

カーリルの検索システムの精度調査の結果報告

齊藤 誠一

1 精度調査の目的

- (1) 一般的な横断検索とカーリルの検索結果に大きな差異がないかの検証
- (2) 各図書館のISBNデータの入力不備等の問題がないかの検証
- (3) 多摩地域で最後の2冊以下の資料を確実に確保することができるかの検証

2 サンプルの提供協力

F市のご協力を得て、除籍資料のデータ（「データF」という。）551件を提供していただく。

3 精度調査の方法

- (1) 「データF」をカーリルの所有するISBN付きデータのデータベース（国立国会図書館及び国立情報学研究所のデータから抽出）と照合し、その「結果リスト」（多摩地域の図書館での所蔵情報が記載されたリスト）を出力してもらう。
- (2) この「結果リスト」をもとに東京都立図書館の統合検索を使って、カーリルの検索結果と都立図書館の統合検索の結果を比較検討する。
- (3) 事務局員を4グループ（2名/グループ）に分け、同じ調査を2名が行う。
- (4) 2015年10月に実施する。

4 調査の結果

- (1) 551件の内、418件は同一結果（76%）となる。残る133件は何らかの差異等があった。
なお、都立図書館の所蔵結果についてはすべて同一の結果であった。
- (2) 133件の差異等の内訳
 - ①書誌データのダブリ＝1件
 - ②外国語資料＝3件
 - ③カーリルの結果<都立統合検索＝51件（数館の不整合・大幅な不正後はなかった）
 - ④カーリルの結果>都立統合検索＝76件（数館の不整合・大幅な不整合はなかった）
 - ⑤同一件数だが館が違う場合＝2件

5 調査結果の分析

- (1) カーリルの検索結果と統合検索の検索結果に誤差が生じるのは、次の場合が考えられる。ただし現在も検証中である。
 - ① ISBNの10桁及び13桁の違い、それによるチェックデジットが影響する場合
 - ② 各自治体の稼働状況による時差の問題
 - ③ 各自治体の図書館システムの問題
- (2) 今回の精度調査では、カーリルと都立の統合検索の結果で大きく食い違う事象はなかった。
- (3) ISBNの不備及び各図書館システムとの相性等について今後も検証を続けていく必要がある。

※ 我々の目的は、多摩地域で最後の2冊以下の資料を保存するための仕組み作りで、検索結果によって保存の方向に安全に振れるようになっているかを検証する必要がある。カーリルの検索結果と都立の統合検索の差異だけで評価するのではなく、安全に、確実に多摩地域最後の2冊以下の資料を保存できる仕組みであるかで評価したい。その点、今回の新システムは、瞬時に多摩地域の所蔵状況を抽出し、かつ具体的な所蔵状況を確認することができる。そのことのメリットは大きい。ただし、ISBNの不備や各図書館システムとの相性等を今後も検証していく必要がある。